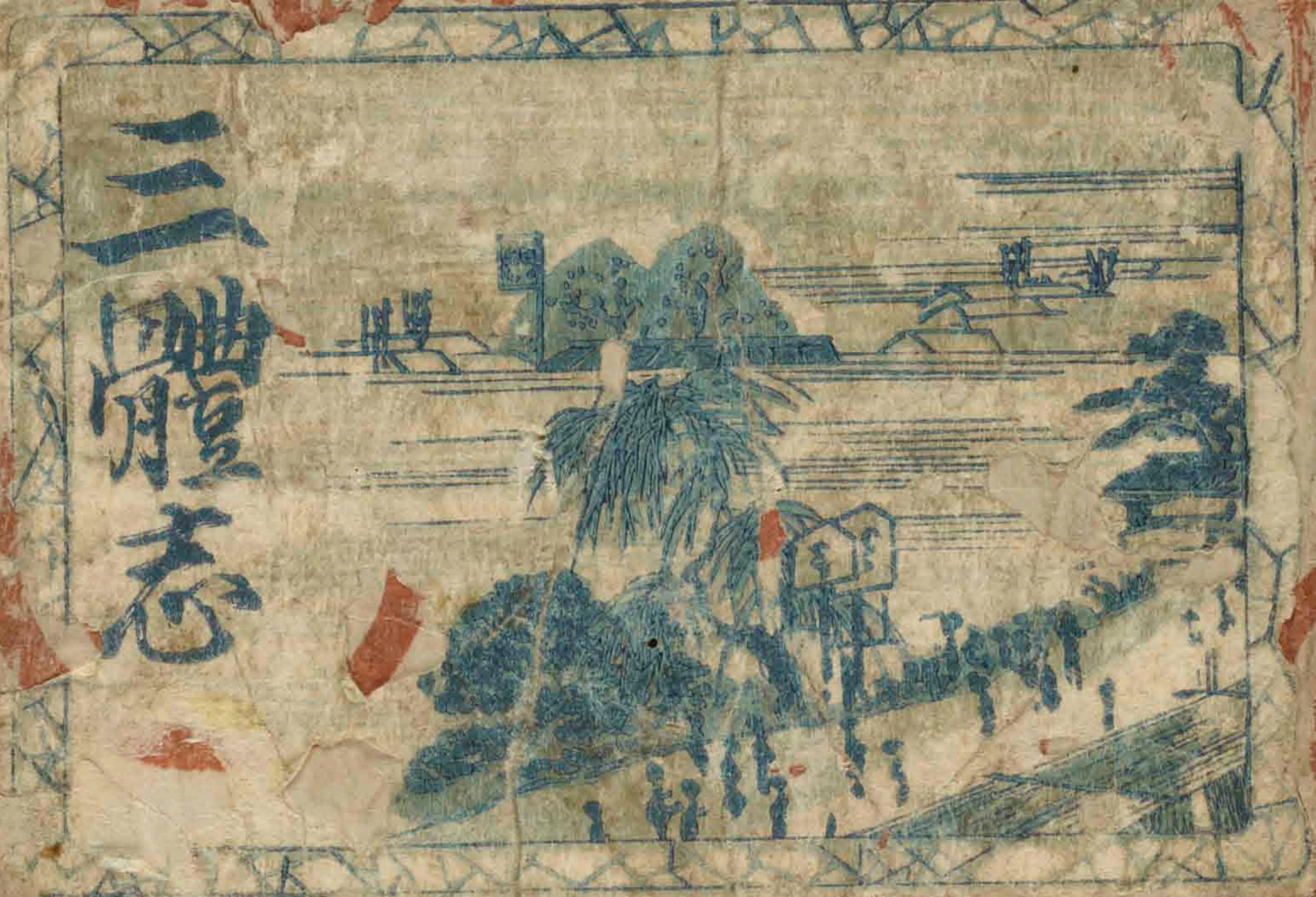


三體志



叙

唐土の三體詩と。文人の手不成王々。初中晚の

三調を中。今様の三體志と。画子の妙を活りて。

真行草は三交成見えと。王々。真実真の筆は

志より所ら以詰と。言はるる。真れ。麻上下お掛

姿の表向を更ま。体のも。行と行義をま。崩して

霰小紋の羽織着法。と。つてのま。は。筆の行くま。

あやを。行。行。譬。と。ま。草。と。草。本。秘。不。和。と。

志の袖も帯の世界も情も志は。志は深草の
 少将も存分。真賢心を走らまを以て草の
 走ぶの如きにたふ。是を挿善小遊人。天枝と
 ちやんとまはまきとも。卒のお建補向う。面もあは
 事ぬく。人枝の流しは舞あ。及の合もあ。合ふ
 とこの何重。地枝とちよ。志も本流まき。足る影もまき
 なる那まきとも。根メの妙も至王て。天人の真と行
 地枝の志も及。及が深の如し。人は一體萬物の靈。

男女の二體の志の合つて。夜食のこの清も成就
 しく。川は字も將る二體も。その元とさ。四體
 させ體いと。おん事あまけ。長口も
 五體屋と。八九體も。序も。事志の如理。

巳丑
 春
 東都の歴史
 百垣千研
 戲題







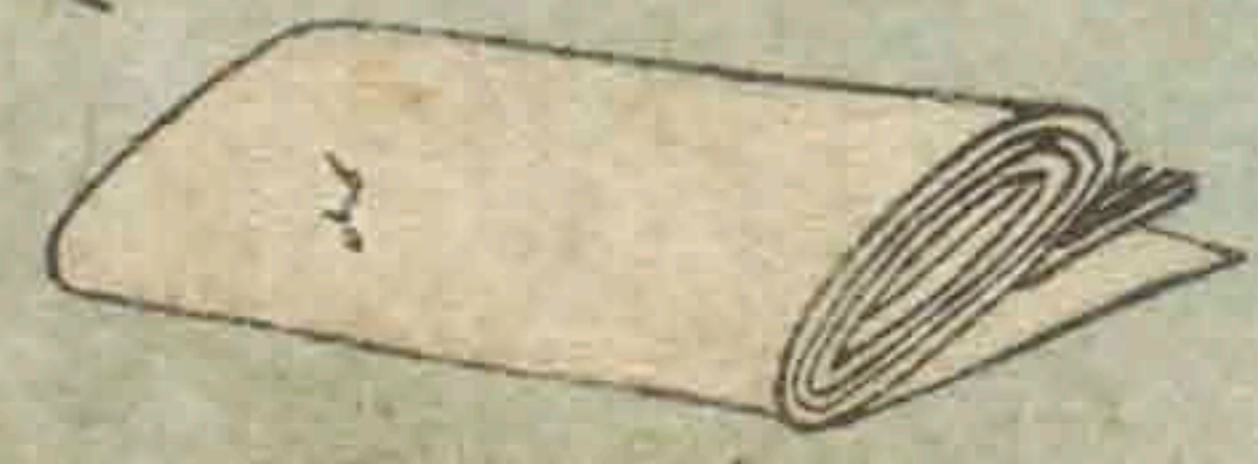




アハガヤウ
のうらみとまらぬ
とちかかんナレハ
のらとひらくもの
今にひらくもの
こゝろかんしん
あちちのまらぬ
あまの



此の御座りておきぬ一歩
おぼつかうと申すは
おぼつかうと申すは
おぼつかうと申すは
おぼつかうと申すは



吉原草

Handwritten text in a cursive script, likely a collection of poems or a narrative. The text is densely packed and includes various characters and symbols.

Handwritten text in a cursive script, continuing the collection from the previous section. It features similar characters and symbols, with some lines appearing to be a list or index.

Repeating geometric patterns on a green background, likely a decorative element or part of a sign.

Handwritten Japanese text in the upper left quadrant, possibly a title or introductory text.

Large block of handwritten Japanese text on the left side of the image, likely a dialogue or a detailed scene description.











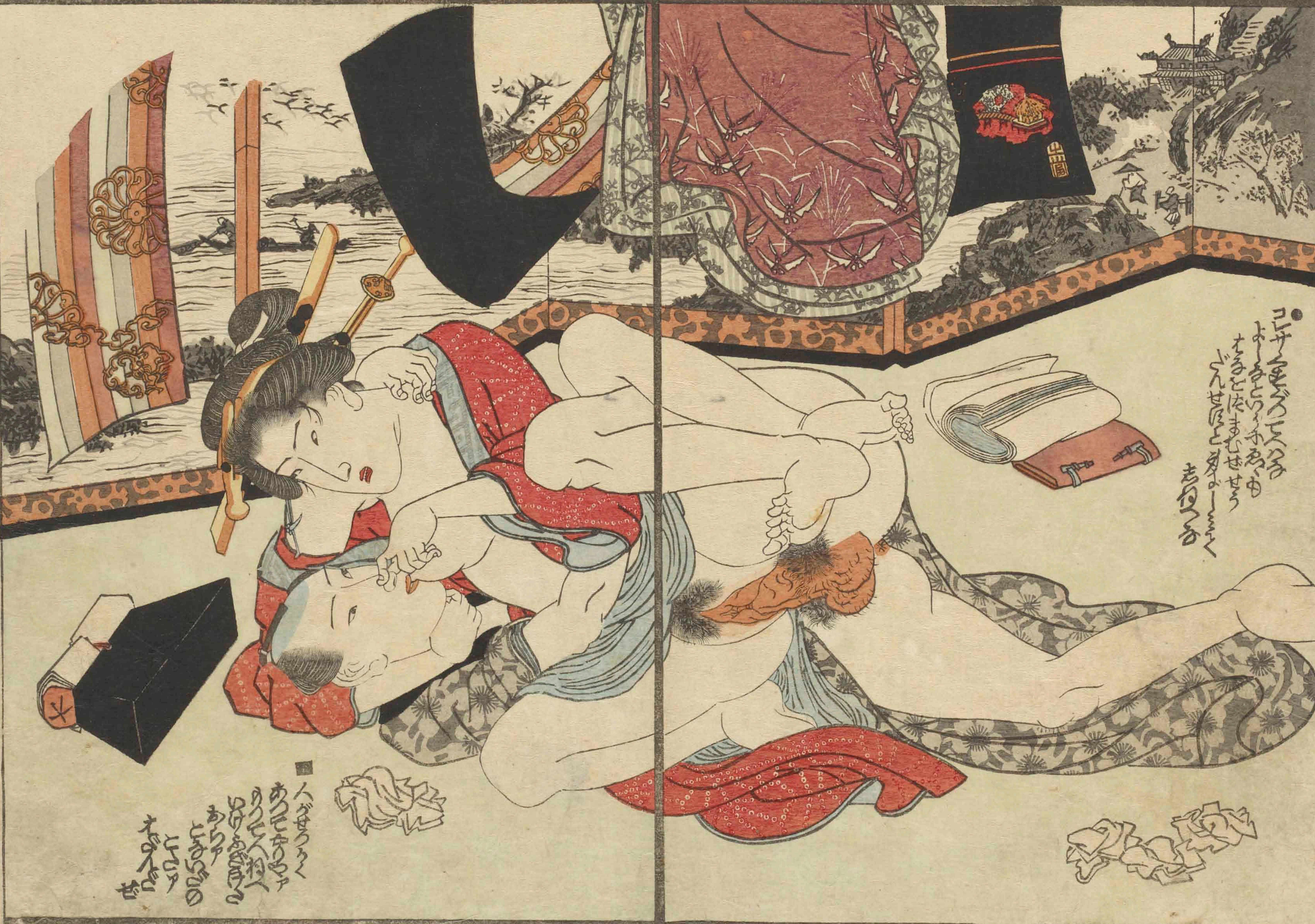
Illustration of a scene from a Japanese play, showing three women in traditional attire. The woman on the left is kneeling and holding a long object, possibly a fan or a scroll. The woman in the center is seated and looking towards the left. The woman on the right is seated and looking towards the center. The scene is set in a room with a blue wall and a red mat.

仲町行

「大いにおもしろいおもしろい」^男「おもしろいおもしろいおもしろいおもしろいおもしろい」^女
 知(き)事(こと)は(は)あ(あ)ま(ま)の(の)向(む)け(け)ら(ら)う(う)の(の)戸(と)も(も)あ(あ)ま(ま)の(の)島(しま)に(に)お(お)せ(せ)下(くだ)す(す)て(て)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。
 あ(あ)の(の)と(と)款(くわん)を(を)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)島(しま)に(に)お(お)せ(せ)下(くだ)す(す)て(て)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。
 名(な)張(ぢやう)を(を)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)島(しま)に(に)お(お)せ(せ)下(くだ)す(す)て(て)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。
 は(は)の(の)や(や)を(を)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)島(しま)に(に)お(お)せ(せ)下(くだ)す(す)て(て)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。
 や(や)を(を)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)島(しま)に(に)お(お)せ(せ)下(くだ)す(す)て(て)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。
 菓(くわ)子(こ)か(か)金(かね)羽(は)の(の)損(そん)料(りやう)が(が)二(に)百(ひゃく)又(また)十(じゆ)文(ぶん)う(う)ら(ら)な(な)い(い)の(の)わ(わ)ら(ら)に(に)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。
 そ(そ)の(の)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)島(しま)に(に)お(お)せ(せ)下(くだ)す(す)て(て)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。
 お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)島(しま)に(に)お(お)せ(せ)下(くだ)す(す)て(て)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。
 お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)島(しま)に(に)お(お)せ(せ)下(くだ)す(す)て(て)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。

殿(でん)の(の)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)島(しま)に(に)お(お)せ(せ)下(くだ)す(す)て(て)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。
 お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)島(しま)に(に)お(お)せ(せ)下(くだ)す(す)て(て)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。
 お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)島(しま)に(に)お(お)せ(せ)下(くだ)す(す)て(て)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。
 お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)島(しま)に(に)お(お)せ(せ)下(くだ)す(す)て(て)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。
 お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)島(しま)に(に)お(お)せ(せ)下(くだ)す(す)て(て)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。
 お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)島(しま)に(に)お(お)せ(せ)下(くだ)す(す)て(て)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。
 お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)島(しま)に(に)お(お)せ(せ)下(くだ)す(す)て(て)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。
 お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)島(しま)に(に)お(お)せ(せ)下(くだ)す(す)て(て)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。
 お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)島(しま)に(に)お(お)せ(せ)下(くだ)す(す)て(て)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。
 お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)島(しま)に(に)お(お)せ(せ)下(くだ)す(す)て(て)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。

袖(そで)ぬ(ぬ)は(は)の(の)衣(え)を(を)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)島(しま)に(に)お(お)せ(せ)下(くだ)す(す)て(て)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。
 猿(さる)猴(まけ)坊(ぼく)の(の)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)島(しま)に(に)お(お)せ(せ)下(くだ)す(す)て(て)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。
 お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)島(しま)に(に)お(お)せ(せ)下(くだ)す(す)て(て)お(お)も(も)ち(ち)え(え)る(る)の(の)。



江戸の風情
 女は紅の着
 男は白の着
 二人は恋の情
 江戸の風情

江戸の風情
 女は紅の着
 男は白の着
 二人は恋の情
 江戸の風情

あつちやうらわのひねりよ
あつちやうらわのひねりよ
あつちやうらわのひねりよ
あつちやうらわのひねりよ



あつちやうらわのひねりよ
あつちやうらわのひねりよ
あつちやうらわのひねりよ
あつちやうらわのひねりよ

あつちやうらわのひねりよ
あつちやうらわのひねりよ
あつちやうらわのひねりよ
あつちやうらわのひねりよ

あつちやうらわのひねりよ
あつちやうらわのひねりよ
あつちやうらわのひねりよ
あつちやうらわのひねりよ

あつちやうらわのひねりよ
あつちやうらわのひねりよ
あつちやうらわのひねりよ
あつちやうらわのひねりよ

田者行

Handwritten text in a cursive script, likely a ledger or account book. The text is written vertically and includes various characters and symbols, possibly representing numbers and names. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing the ledger or account book. The text is written vertically and includes various characters and symbols, possibly representing numbers and names. The script is dense and fills most of the page.

猿 獲 坊

りんごんあまはごうちん
 いちごでかきまわすよも
 かりばんごよ
 わんごう入るのや
 のねるこおわじ
 きろていでも
 あつこの
 ねんごち
 むあめが
 ぼめてばし
 きんぎょね
 くのころ
 をひらろほう
 まぶささき
 およさそん
 香りのそん
 ちかこのそ
 ころころあ

又平画

そんま
 うまろ
 へんま
 いりけ
 おまふ
 ころんか
 ころんか
 こね

何ぞのわア
 あれがアね
 よしご













平ゆきれりやうりやうり
+ ぞんじやうりやうり
あれはへんやうりやうり
くくくくくくそれ
だんご
あつて
しんやう

△ ぞんじやうり
+ ぞんじやうり
それくくくく
あつて
しんやう

一
カ
ク
ク
ク